

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究において、「自分の考えを明確に表現する言語活動を計画的に取り入れる」ことをめあてにして授業実践を行ったことが、「主体的・対話的で深い学び」の具現化につながっただけでなく、引いては学力向上につながったと考えられる。</li> <li>・「松梅のよさに気づくこと」に向けて、学校運営協議会の支援のもと地域との計画的な連携を取りながら効果的な指導を行うことができ、それが顕著な結果につながった。</li> <li>・いじめ事案や配慮を要する児童への対応について、職員共通理解のもと常に迅速かつきめ細かに行うことができ、それが保護者の信頼を得ることもつながったと考えられる。</li> <li>・配慮を要する児童や不登校傾向児童の増加に伴い、校内(担任・養護教諭・管理職・SC・SSWなど)におけるより緻密な連携を取りながらの指導・保護者対応をしていく必要がある。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	ふるさと松梅を担う心身ともに調和のとれた子どもの育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 社会に開かれた教育課程の実現</li> <li>② 学校運営協議会制度を生かした小中一貫教育の推進</li> <li>③ 安心・安全な学校づくり(集団に不適応を起こしている児童生徒への対応)</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				中間評価		5 最終評価			主な担当者	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示した共通実践事項(具体的手立て)を継続して実践した教師の割合が80%以上。 ○各学年における国語・算数の単元末テストの学級平均点が、5・6年で85点以上、1～4年で90点以上。	・授業づくりの意識づけのために、月1回、「授業づくりのステップ1・2・3」をどの程度活用しているかアンケートをとる。 ・学習カルテや児童との学習相談などを基に学習課題を把握・提示し、個に応じた自主学習に取り組ませる。							学力向上
	○主体的に学習に取り組む態度を向上させるために「期待する学びの姿」をめざした授業づくり ○主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり	○「めあてをもって学習に取り組むことができたか」「めあてに対して振り返りを行うことができたか」に肯定的な回答をする児童の割合が80%以上。 ○「自分の考えを表現することができたか」に肯定的な回答をする児童の割合が80%以上。	・学校全体で振り返りを定着させるために、教職員間で共通理解し設定した振り返りの指導(振り返りの視点を提示する)を行う。 ・「自分の考えをもち、ペア活動で表現する」言語活動を毎時間取り入れるよう心掛ける。							学力向上
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の学習で、積極的な意見交流をさせることができたか」に肯定的な回答をする職員の割合が80%以上。 ○「友達の良いところを見つけたり、ほかほか言葉を使ったりすることができたか」に肯定的な回答をする児童の割合が80%以上。	・道徳の学習において、「価値項目に対する自分の考えをもたせる」、「自他の考えを交流させる」活動を設定する。 ・命や公正・公平の大切さに気付かせる目的で、ほかほかの木や平和集会、人権集会を設定する。							人権・同和教育相談
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等(いじめ防止に向けた取組、事案への対応等)に対して組織的対応ができていないか」に肯定的な回答をする職員の割合が80%以上。	・毎月児童に「心のアンケート」を行い、気になる児童の把握をして、早期に対応をする。 ・職員連絡会後に、気になる児童の情報交換を行い、支援の進捗状況についての共通理解を図る。 ・いじめ防止研修や共通理解の場を年3回設ける。							教育相談
●健康・体づくり	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めていると思う」と回答した児童80%以上。 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上。	・「ゆめノート(キャリアパスポート)」を活用し、夢や希望について考えさせ、目標を意識させながら学習や活動に取り組ませる。 ・経験や達成感により、自己肯定感や自己有用感を高めさせるために、体験活動を計画的に仕組む。							キャリア教育特別活動
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上。	・食の大切さについての意識を高める目的で、給食センターの栄養教諭と連携し給食指導や食に関する授業を行う。							保健・体育・食育
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守している職員の割合が100%。	・月～木曜日は18:30までに施錠、金曜日は17:10に施錠する。併せて、「施錠時刻まで仕事をしてよいのではない」という共通理解を定期的に図っていく。							副校長
	○ワーク・ライフバランスの充実	○「自身の心身をリフレッシュさせる時間を設けることができたか」に肯定的な回答をする職員の割合が85%以上。	・リフレッシュの仕方の視点を広げ、促進させる目的で、個々の様々なリフレッシュの仕方の交流を定期的に行う。							
●特別支援教育の充実	○学習や生活におけるつまずきを把握し、個々に応じたかかわりを行う。	○「児童の実態の把握に努めた」「実態に応じた支援を行った」と回答する職員の割合が85%以上。	・特別支援コーディネーターと各担任が連携をし、個々のつまずきに応じたかかわりの検討、実施を行う。 ・職員連絡会や小中合同の支援協議会等を活用し、児童の実態の把握・共有を図る。 ・職員全体での研修を設定して、実態に応じた支援の在り方についての理解を深め、実践につなげる。							特別支援教育

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		5 最終評価			主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
○不登校および不登校傾向児童	○不登校および不登校傾向児童への組織的対応	○「不登校および不登校傾向児童に対して組織的対応ができていないか」に肯定的な回答をする職員の割合が80%以上。	・気になる児童について、毎週の職員連絡会や毎月の生徒指導・校内支援協議会等で随時共通理解をし、必要に応じてケース会議を開くことで、学校全体で組織的に対応をする。							教育相談

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
----------------	---